１．兵役

（※ 関連資料のある箇所は太字で示してあります。）

２．シンガポールの植物園

【木 田】そして，シンガポールの第 3 輸送司令部と(**資料 1-2** に)書いてございますが，実はそこへ行く前にジャワ島に上がったんですね。シンガポールで間違いなしに船団が入りま して，すごい立派な文化都市というんでしょうか，今の東京の高層ビルを見ているような高層ビルが，シンガポールの港へ船で入っていくと，すっと見えるわけですから，なるほど大英帝国というのはすごいなあという印象を持って。シンガポールで何日か外へ出たりする，遊ぶ時間があったんです。 まあ思い出しますんで，ちょっと流れとは別ですが，申し上げておきますと，シンガポールには，大変立派な植物園がありました。

この植物園には,イギリス人のケンブリッジ大学のジョン･ヘンリー･コーナー(Jone Henry Corner)という植物園長が占領開始の当初からずうっとそこにいてくれまして，そして日本の研究者のときには徳川(義親)さんが植物園長で，次席かなんかで，イギリスのケンブリッジ大学の教授なんですけれども，それが所長でおられて，そして戦後まで回復の仕事を同じ所長さんがなすったんです。その方がですね，シンガポールにおける日本の人たちの植物園というものに対する扱い，それから学問というものに対する扱いというのを非常に高く評価してくれましてね，日本の学者の方々のおつき合いについて本を書かれている。それは，その本を英文で書かれて，イギリスで発行しようとしたら，こんなばかなことがあるかと，みんな断られてですね，出してくれなかったんですね。ところがその方のところで学んでいた女性の日本の研究者がですね，その本を読んで感銘をうけ，翻訳したんです，自分で。

これは中公新書になって出ておったと思います。（J.H.コーナー著，石井美樹子訳『思い出の昭南博物館』中央公論新社 1982）シンガポールの植物園の，その占領中から戦後にかけての活動を，ずうっと占領者である日本の徳川公の差配でこういう研究者が来てということが書いてある。こんなばかなことないとイギリスの出版社が断ったのを，日本の出版社が先に出した。今日，毎年，日本学術振興会がお世話をして，陛下のご在位 60 周年の記念のお祝いの国際賞生物学賞を出しておられます。私自身がたまたま学術振興会の理事長をやっているときに，昭和天皇ご在位 60 年を記念した国際賞をつくることになり，学術振興会がお世話をして，その第 1 回の受賞者に，そのケンブリッジ大学の先生の名前が出て受賞されたのです。その本を見ていると，日本の研究者の方々が，戦時中一生懸命になって南方の植物というものに対する研究の姿勢をきちっと持ってらしたということがよく出ておるんで，日本人がほめたんなら，それは手前味噌かもしれませんけどね，そういうことがありました。